

ようやく期末テストが終了しました。授業で学んだことはしっかりと定着していますか。定期テストは、1学期間の学びの集大成。テスト返却後は、間違えたところ、答えられなかったところの確認に時間をかけ、しっかりと復習しておくことが大切です。

さあ、待ちに待った夏休みが目の前！講習やクラブ活動などで忙しいかもしれませんが、自由な時間はたっぷりあります。こんな時こそ、読書を通じて見知らぬ場所へ旅をしてみてもいいですか。図書館では、みなさんを旅へいざなう本がたくさん待っていますよ。この夏、本を通じて新しい場所へ出かけ、新しい人たちと出会う、まだ見ぬ世界へと旅してみよう！

読書感想文に挑戦しよう！！

今年65回目となる「青少年読書感想文全国コンクール」の募集がスタートしました。自分なりに一度、本を読んでどこに感動したのか、なぜ心を動かされたのかを考えてみて、もう一度本を読んでみよう。ページをめくりながら思ったこと、想像したことなどをメモしておく、感想文の土台となります。また、家族や友だちに感想を話してみるのもいいですね。話しながら、自分が伝えたいことは何なのかがはっきりしてきます。感想文を書くことで、より深く自分を見つめなおす機会にもなります。

1年生は夏休みの課題となっています。もちろん、2、3年生のみなさんも挑戦してみてくださいね。

今年度の高等学校の部の課題図書は

① 『この川のむこうに君がいる』 濱野京子・作（理論社）

梨乃は、あえて同じ中学出身者のいない都内の高校を選んだ。それは、3.11の被災者であることを隠し、高校生活をまっさらな状態で始めたいと思ったからだ。大震災から三年後の、被災地から遠く離れた場所で、若い心の軌跡を追う物語。



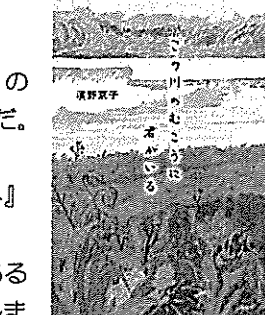
② 『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ：あなたがくれた憎しみ』 アンジー・トーマス・作 服部理佳・著（岩崎書店）

ギャングがはびこる町に暮らす女子高生、スター。ある晩、幼なじみのカリルが白人警官によって射殺されてしまう。目の前で起こったこの事件は、事実と異なって報道されていく。事件によって徐々に変わりゆく周囲と、スター自身の心。スターは覚悟を決めて立ち上がる。カリルの声となるために。ポストグロープ・ホーンブック賞受賞アメリカの社会問題を映しだす、映画化もされた話題作。

③ 『ヒマラヤに学校をつくる：カネなしコネなしの僕

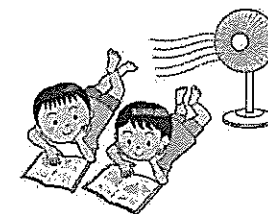
と、見捨てられた子どもたちの挑戦』吉岡大祐・著（旬報社）

子どもたちに教育を！ 貧しいけれど、きっとここは世界一幸せな学校。人身売買、児童労働、カースト差別…貧困のネパールで、ゼロから学校づくりに挑んだ若者と子どもたちの涙と感動の20年の軌跡。



以上の3冊です。課題読書、自由読書、どちらでもOKです。詳しい要項は、「夏休みのしおり」に書いてあります。

3年A組



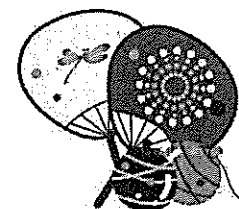
模倣犯 作者宮部みゆき 出版社小学館
ある猟奇的な殺人事件を被害者側や事件を追う記者、刑事など複数の視点から描いたミステリー作品。3000ページを走る超大作で、読者の心にもそれなりに体力を使い、それを補ってあまりある迫力が本作にはあります。複数の視点から描かれているので物語をいろいろな角度から眺めることができます。

2年F組



君は腋に光を運ぶ
作者佐野徹夜 ポプラ社

発光病として不治の病に侵された女子高校生が残り少ない生命においてやり残した事を、同じクラスの男子高校生に「代行」していく話で、時間がたっていくにつれお互いが女子きになっていく恋愛小説です。映画化もされているのでおすすめです。



6月の図書館利用状況			
1年生	2年生	3年生	合計
99人	25人	175人	299人

期末テストの勉強で、自習の利用者が増えていました。それぞれ集中して取り組んでいたようです。3年生は、受験勉強との両立で大変ですが、いつも以上に熱心に勉強しているようでした。夏休みも、図書館は毎日開館しています。大きな机と開放的な空間で、落ち着いて勉強できると好評ですよ。どんどん利用してくださいね。

